

## 平成20年度 第1回府中市福祉計画検討協議会 会議録

■ 日 時：平成20年4月15日（火） 午前10時から12時まで

■ 場 所：府中市役所 北庁舎 3階 第3会議室

■ 出席者：（五十音順・敬称略）

<委 員>

石見龍也、板山賢治、海野慎一、川和勝、菊地満里子、北川勉、佐藤久夫、東英彦、藤原慶一、逸見小百合、村越ひろみ、和気康太、和田光一

<事務局>

福祉保健部長（矢ヶ崎）、福祉保健部参事兼高齢者支援課長（鎌田）、地域福祉推進課長（鳥羽）、同補佐（山崎）、生活援護課長（吉野）、高齢者支援課長補佐（加藤）、同介護保険担当主幹（田添）、同地域包括支援センター担当主幹（市川）、障害者福祉課長（深美）、同補佐（松尾）、地域福祉推進課（堀）、子ども家庭部長（松本）、子育て支援課長（川崎）、同推進係長（山本）、株式会社生活構造研究所

■ 傍聴者：なし

■ 議 事 1 開会

2 検討協議事項

（1）第3回福祉計画検討協議会会議録について

（2）福祉計画改訂スケジュールについて

（3）福祉計画調査からみえた課題について

3 その他

■ 資 料 資料1 第3回府中市福祉計画検討協議会会議録

資料2 府中市福祉計画改訂スケジュール（案）

資料3 府中市福祉計画の体系（案）

資料4 府中市福祉計画調査からみえた課題

資料5 府中市福祉計画調査報告書

## ■ 議事要旨

### 1 開会

事務局：定刻になりましたので開会いたします。まずお手元の資料のご確認をさせていただきます。資料1～5についてご確認ください。本日の会議は、委員20名中、13名の委員の皆様にご出席いただいておりますので有効となります。また、本年4月1日に庁内の人事異動がありましたので、お手元の名簿をご確認ください。

会長：昨年の12月の会議から久しぶりの会議となりますが、よろしく申し上げます。全体のスケジュール、計画などについて事務局から説明をお願いします。

### 2 検討協議事項

#### (1) 前回福祉計画検討協議会会議録について

事務局：前回議事録につきましては、事前に皆様に郵送したものを指摘の部分に修正を加え、個人名を委員という表記にしております。これでよろしければ市ホームページ、市立図書館等で公開させていただきたいと存じます。

会長：ありがとうございます。特に異論は無いようですので、ホームページ、図書館等で公開するということをお願いします。

#### (2) 福祉計画のスケジュール等について

事務局：(資料2を説明)

計画素案の確定は7～8月ごろ、その後パブリックコメントという流れになります。次世代の計画については平成21年度に計画を策定しますので、今年度はアンケート調査の実施ということになります。

会長：次世代は平成22年度の改訂を考えているのですか。今年度はその準備ということですね。

事務局：そうです。

会長：進捗はどのような見通しですか。

事務局：厳しいスケジュールになりますが、よろしくお願いいたします。

副会長：計画期間の調整が難しいですね。介護保険計画は3年に1回と決められていて、自治体の裁量権が無い。次世代、障害者計画も法定計画です。歩調を合わせられるうまい方法があるとよいのですが。

事務局：今回は次世代が1年先まであるので、その調整は必要だが、他の計画は全て同時期で調整できています。他の計画は6年間、次世代は5年とし、その先は同じペースでいきたいと考えています。

副会長：わかりました。他の自治体では計画の弾力性がないことが多いのですが、今の説明

でよくわかりました。

会 長：縦割りの強い自治体もあるが、府中市は基本計画があり、それを受けて分野別計画があるのでわかりやすいですね。

委 員：他の教育計画、雇用計画などとの調整の必要は無いのですか。

事 務 局：市には様々な計画があるが、基本は総合計画です。それぞれの計画どうしの整合性について、期間をすべてあわせると硬直化するおそれもあります。そこで、事業実施計画は全ての分野で3年ごとに定めていますので、そのなかで計画の整合性を図るといことになります。

会 長：全てを同じ期間でやるという方法、少しずつずらしてやるという方法、いろいろあると思います。市には総合調整機能はありますか。

事 務 局：政策課が調整いたします。

委 員：総合計画の事業実施計画と福祉計画の関係はどうなっていますか。

事 務 局：総合計画の期間は本市では12年間、それを6年ごとに見直し、3年ごとに事業実施計画をつくっています。細部は福祉計画でつくりますが、総合計画の理念や施策は福祉計画に反映させています。総合計画の事業実施計画に基づいて福祉計画があるという位置づけです。基本構想、基本計画、各分野の個別計画という構造になっています。時代の変化に応じてどうするのかという問題については事業実施計画で対応しています。したがって、実施計画の期間は短くなっています。

委 員：できれば次回までに一つの表にまとめて欲しい。同時に地域福祉分野では、実施計画、たとえば防災計画と整合する必要がある。連絡調整の仕方について確認させて欲しい。

会 長：事務局でわかりやすく整理しておいてください。では、課題についてお願いします。

事 務 局：資料3、4、報告書についてご説明します。

福祉計画の基本視点について、「市民との協働」という言葉を加えましたが、基本的に理念、視点は前回の計画を踏襲しています。さまざまな担い手や推進の仕組みについて触れています。地域福祉分野では、福祉のまちづくり推進計画を新たに追加しております。

また、調査報告書のまとめ方は、課題を先頭に配置しました。

会 長：今の説明についていかがですか。

6つのエリアについて補足説明をお願いします。

事 務 局：府中市では6エリアで福祉施策を展開しています。福祉施設等の基盤整備、社会資源などを見るうえでエリアの区分けが必要となります。市の他の計画には8エリア、12エリアなどいろいろあるが、これまでの福祉計画の流れを継いで6エリアとしました。6エリアは措置の時代の在宅介護センターなどの6施設を引き継いでいます。区分は主要道路で線引きしています。

会 長：市の人口が24万程度ですから、1地区を3万5千人～4万人ということになり、理想的だと思います。

副 会 長：自治体によっては福祉計画をエリアごとに立てるところもあります。トップダウンではなく、エリアごとに作って積み上げるボトムアップという方法もあるがいかが

でしょうか。各エリアごとの市民活動、市民参加が広がっていくという効果があります。

委員：地区割りの議論はこれまでずいぶんしました。全体の考え方を提案したうえで、6分割含めて、社会福祉協議会等に理解を求めながら構築するというスタイルをとりあえずとってみようと思います。

会長：資料3の2枚目の地域福祉計画のところで、「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」では中学校区、人口3万人くらいの規模で検討するという提案がされている。全体計画から各地区計画を決めるのも一案、同時に地域からあげてくるボトムアップ方式も一案と思う。ご検討いただきたい。

委員：ふれあい会館にまちづくり推進協議会がある。高齢者、防災、防犯などについて、年に何回か議論をしている。そういう集まりで地域住民の意向を聞いて欲しい。

事務局：今のお話のとおり社会福祉協議会で小地域懇談会というのをやっております。PTA、老人会、自治会の方などいろいろな方にお集まりいただき、テーマごとに議論していただいています。報告書をいただいているので計画作りに反映させていきたいと思えます。各地域の方々大変熱心で、心強いと思っています。

会長：外国人やワーキングプアなど福祉の谷間にある人々の数字が出されています。新しい地域福祉の展開を考える上で大切ですね。

委員：「あきらめない認知症」という講演を聞いて、地域の支える力の大きさを実感した。マンションの消防訓練などに参加して、地域に存在を知ってもらうということもあるので、地域から与えてもらうだけではなくて地域の中へ出て行くことも必要と思う。

会長：杉並区も認知症を地域で支える運動を始めています。高齢者福祉分野で「認知症を支える」というのも問題意識として持っていただきたいと思えます。

委員：認知症の問題は重要。周りが本当に支えなければいけないと思う。小地域懇談会のことは知っていて、あれだけ多くの人が集まって話し合いをしていることは大切と思う。地域間に格差があるので新興住宅地に特に力を入れることと、いろいろな団体間の連携を図れる場が必要と思う。

委員：小地域懇談会は社協が11地域単位でやっています。

会長：それはすばらしいですね。

委員：エリアごとに地域の人が集まってということですよ。

会長：調査から見えた課題に、ネットワーク作り、小地域活動の活性化を入れるとよい。

委員：そのような懇談会に出てこられない、一般市民に、この福祉計画がなかなか伝わらないと思う。小学校の教育の機会、家庭で語り合える機会があるとよいと思う。

会長：小中学校で福祉をどうやって広げていくか、重要な問題ですね。

委員：細かい地区の問題は地域福祉の分科会で検討すればよい。そのような分野別の議論を受けて、当協議会は素案をどのように検討するのかを議論するべきと思う。

事務局：協議会の位置づけは、各分野から挙がってきた課題をうまく調整し、全体を見渡す場ですので、全体からみたご意見をいただければと思います。

会長：計画の体系全体をまとめるのが本会の役割ですね。

- 委員：課題の中で、団塊の世代の生きがい作りが印象に残った。府中市でも高齢化、少子化が進む中で団塊の世代がリタイアした後の活躍の場をつくり、どうやって地域につなげていくかが重要と思う。
- 会長：団塊の世代をターゲットにした資料もあるといいですね。
- 委員：地域活動への参加程度が属性別に異なっている。今回は調査していないが、介護保険を利用している人の参加状況が知りたかった。地域福祉分野、高齢者分野で、団体の調査もやって欲しい。それらを加味するとよいアイデアが出てくるのではないかな。
- 会長：いろいろな団体、NPOの意見を聞くチャンスは設けてはどうか。
- 事務局：補足的にいくつかの団体にヒアリングしています。その成果も計画に反映させるようにいたします。
- 会長：高度障害、重度障害者がどういうニーズを持っているか、この課題の中に出てきていないので、府中市でもぜひ取り組んで欲しい。災害時の情報については、特に障害者、高齢者の名簿、マップ、ネットワークをどう整備するか考えたほうがよいと思う。
- 事務局：重度障害者には定期的に接触して課題を聞いています。高次脳機能障害の方はデータがないものですから、調査のなかで抽出して調査に反映し、課題を見つけるというのは現状では厳しいものがあります。
- 会長：調査対象としてはあがってこない。あがってこないからこそ問題提起しています。取り上げるべき課題として網羅していただきたいと思います。
- 委員：日本の福祉のレベルはあまりに低い。これだけの課題が出ると経済的な裏づけが必要になる。商工会議所でもワークライフバランスのことなどもテーマとして取り組んでおりますけれども、みなさまの意見を反映させるよう努力したい。
- 委員：特別支援学校を卒業しても進路が無いのが現実です。「いきいきと暮らせる」ということでそういう問題を取り上げて欲しい。
- 委員：調査、課題、解決策と言う流れになっているが、基本視点に立ち返って検討してもらいたい。市民参加でやっていこうとしているわけだが、ソーシャル・インクルージョン、ノーマライゼーションなど共通語として市民にそのまま出しても飲み込めないと思う。コミュニティセンターは何をやる場所なのか、という疑問がでてくることからわかるが、言葉を噛み砕いて欲しい。また、「意見を聞いているので調査はしておりません」と言う事務局の回答があったが、そういう情報もきちんと出して欲しい。
- 会長：用語の注釈をつけること、拝聴した意見はきちんと掲載するようにお願いします。
- 委員：障害者分野では、調査として表に出てこなかった部分の課題をどうやって拾い上げて計画に反映させていくかが重要。自分の家にも90歳を過ぎた高齢者がいるが、介護保険の認定は受けていない。地域の人がこういう高齢者がいるということを知ってくれれば安心できる。介護保険に属さない高齢者の課題をクリアにできるとよい。
- 委員：調査報告書概要版93ページの地域活動を行う上での必要な環境・条件ということ

では、地域の中でいかに組織化していくのかというのがテーマかと思います。ボランティアを含めた担い手の育成が求められていると思う。コーディネーターをどうやって育成していくか。ソーシャル・インクルージョンはみんなを包み込んでいくと言うイメージで書くとわかりやすいと思う。

委員：先ほどもありました統計的数値に出ていないが重要な問題として、高次脳機能障害、重症心身障害のことですが、このような人がいかに府中市で安心して暮らせるかというのが眼目であると思います。また、精神障害のことでは、作業所に調査票を送って調査したということですが、作業所にも出てこられない重度の精神障害者の問題がある。

委員：各分野の方が集まるこのような場はきわめて重要と思った。

会長：日本の福祉にはいろいろと問題はあるが、それほど悪くはないと思う。府中市は上位にランクされると思う。消費税5%などという国は珍しいので、市民の最低限の福祉は税金を使ってでもきちんとさせるべきである。また、介護保険があれば高齢者福祉は解決という考えがあるようだがそれは違う。高齢者福祉、障害者福祉は、それぞれ、介護保険、自立支援法のカバーできる範囲より広い問題を抱えている。

### 3 その他

会長：次回の日程について事務局よりお知らせください。

事務局：次回の協議会でございますが、6月頃を予定しています。早めに調整してご連絡いたします。また、報告書へのご意見があればご連絡いただければ幸いです。

会長：本日はこれにて閉会いたします。

以上